

'13年度 入学式・体育大会



校長挨拶

ついこの間新入生を迎えたのに、あっという間に体育大会を迎えてしまいました。

大会での関心はどうしても「応援合戦優勝」に集まりがちです。確かにそれはひとつのはっきりした「結果」でしょう。

しかし、もっと大きな「結果」があったことを私たちは忘れてはなりません。

賞こそ獲得できなかったけれど、今までの「自分」と違う自分を発揮した多くのリーダーたちがいました。

翌日の生徒集会でも整然とクラスを整列させ、まとめあげたリーダーたちがいました。

また、彼らを支えた多くの仲間がいました。伝統はこれできっと引き継がれます。

細かな事は置いて、その事実気づかされた、本当に胸のすく、心の晴れる体育大会だったと思います。



学校長 井戸 裕久

OKINAWA × NAGOYA

「ホンモノ」に出会える場がある
～「ホンモノ」に触れば人はかわる～

教員有志が中心となり、「であう・つくる・つなぐ」をテーマに学びの場・動機づけの場を用意する活動に取り組んでいます。ここでは、学びのジャンルは問わず、常に「ホンモノ」にこだわっています。参加者が自分を磨き、高め、社会で自主的に生きていくことのきっかけになればと思い活動しています。

これまでの活動の一端をご紹介します。

3月29日、同朋学園内の「ホールDo」にて「OKINAWA×NAGOYA～社会に発信する『おとな』～」と題したシンポジウムを開催しました。ゲストとして沖縄のフリースクール「珊瑚舎スコレ」か

ら創設者である星野人史氏と、映画『ヤギの冒険』で評価が高い高校生映画監督である仲村颯悟氏を招きました。当日は映画上映会と参加型授業を実施しました。

現在の沖縄を問うことは決して簡単ではありません。しかし、参加者の主体的な参加によって非常に有意義な時間となりました。

(教員代表 鶴岡 昌毅)



PTA会長のことば

PTA会長 竹田 恵一

本年度同朋高校PTA会長を務めます竹田です。

1年生の皆さんは4月の入学式から3ヶ月になりますが学校生活に慣れたでしょうか。クラスの友達はできましたか。また、部活はどうか。入学して間もなくのフレッシュマン合宿は緊張しましたか。合宿を終えた皆さんは短期間できっと成長したと思います。

同朋高校はさまざまな学校行事や、希望する進路に合わせた勉強の場作り、生徒を思う熱心な教職員など、皆さんが成長する機会がたくさん用意されている学校だと思います。3年間は長いようですがあとで振り返ると短い高校生活かもしれません。積極的に参加し高校生活を生き生きと過ごしてください。

保護者の皆様も学級懇談会や地域懇談会、学園父母懇談会行事などさまざまな場所で先生と交流し、意見を交わし、学校の様子や、保護者と先生の思いを知る機会がたくさんあります。ぜひご都合をつけてご参加ください。私たち保護者も同朋高校の一員として子どもたちのためによりよい学校にしていきたいと思います。

PTA新役員



会 長	竹田 恵一	会 計 監 査	中村 浩史
副 会 長	黒井 章広	会 計 監 査	小川美智子
副 会 長	棚町 妙子	事業委員長	内海 邦江
副 会 長	近藤 孝夫	文化委員長	竹田 純子
副 会 長	高木 貴子	生活指導委員長	稲垣ひとみ
会 計	河合友佳子	地域懇委員長	奥田 真紀

Schedule < 行事予定 >

6月		8月		9月	
30 日	ビジネス文書実務検定	3 土	オーストラリア語学研修(18日まで)	2 月	始業式
7月		4 日	同窓会総会	7 土	音楽科アンパル演劇会 3年進路ガイダンス
3 水	家庭学習日	6 火	第1回学校公開日(セミナー体験)	14 土	PTA常任委員会 1・2年学級懇談会
11 木	芸術鑑賞	21 水	合同クラ達合宿(22日まで)	17 火	月曜時間割
12 金	三者懇談会・3時間授業(18日まで)	24 土	地域懇談会総括会議	22 日	情報処理検定
13 土	サマーセミナー(15日まで)	25 日	PTAバスツアー	27 金	文化祭(29日まで)
19 金	終業式	26 月	出校日	30 月	文化祭代休
28 日	ビジネスコミュニケーション検定	27 火	第2回学校公開日(部活動体験)		

地域懇談会

学年・クラスの枠を超えて、地域別に本音で語り合う「地域懇談会」は、今年で37回目を迎えます。今回は「いつ話すの?今でしょ!」つながる話せる同朋LINE! ～誰も知っている人いないから…なんて言わないで～」をテーマに、各会場趣向を凝らしてアットホームな雰囲気のもと実施します。当日使用するパンフレットは、各家庭に送付いたしましたので、ご確認ください。

6月29日(土) 在学地域を
6月30日(日) 24地域に分け、
7月 6日(土) この4日間の
7月 7日(日) いずれかで実施します。



新任教員紹介

理科



荒川 諒太 先生

今年度から理科教員として働かせていただくことになりました荒川諒太です。

私は、生徒が夢を持つきっかけを与え、夢を叶えるためのサポートをしたいと思い教員になりました。そのために、理科の授業を通して「考える力」を養わせたいと考えています。本校では、理科の授業に実験を多く取り入れています。ただ実験をするだけでなく、結果から何がわかるのか考察するところまで大切にしていきたいと思います。

同期高校に勤めて2か月が経ち、とても印象的だったのは体育大会の応援合戦です。行事に対し一生懸命取り組む生徒たちを見てとても感動しました。そのような生徒たちの良いところをもっと引き出せていけるよう努めていきたいと思っています。

英語科



石塚 亜衣 先生

今年度から英語科教員として働かせて頂くことになりました、石塚亜衣と申します。

私は、生徒達に高校時代を終えるまでに、以下のことを身につけてもらいたいと思っています。第一に、自分に自信を持てるようになること。第二に、お互いの言いたいことを言い合い、ぶつかりあってもいいから、本当の意味で信頼し合える友人を見つけること。最後に、高校時代に一つでもいいから何かをやり遂げること。

そのために、私は生徒に寄り添いながら、一緒に色々なことを乗り越えていきたいと思っています。

数学科



山本 明里 先生

今年度から数学科教員として働かせて頂くことになりました山本明里と申します。

赴任してから約2か月間、授業や部活、先生という職業すべてをがむしゃらに取り組んできました。その中で、生徒に対して私の心に芽生えたものがあります。それは“やる時はやる”と“当たり前”の言葉を当たり前にする”です。真面目な優等生にならなくていい、ただ、やると決めた時にはしっかりやり、当たりのことを当たり前にする、そんな人になって欲しいと思っています。

また私自身としては、その一瞬を大切に、今自分ができること、今だからこそ生徒にできることを考え、精一杯取り組んでいきたいと思っています。

社会科



松尾 良亮 先生

初めまして。社会科教員として働かせていただくことになりました松尾良亮と申します。

生徒が日々成長していく姿を間近で見ることができ、教員としてのやりがいを感じるとともに、私も生徒から学ぶことが多く成長させてもらっています。

私は、生徒が自分の「芯」となるものを見つけられる教育を目指しています。なぜなら、自身自身に確固たる「芯」があれば社会の荒波に負けず、しっかりと自分の人生を歩める人間になると思うからです。それを形成するのは容易いことではないですが、生徒との信頼関係を築き、生徒の輝く部分を一つでも多く見つけられるようにしていきたいです。

入学式保護者ガイダンスの様子



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



13年度 入学式

●'13年度 在籍者数(4月6日現在)

	男子	女子	計
普通科	467	409	876
商業科	52	155	207
音楽科	9	60	69
計	528	624	1,152

新入生の皆さん。入学おめでとうございす。また、今日まで慈しみ育てて来られた保護者のみなさま。ご家族のみなさま、本日は誠にありがとうございます。教職員を代表して心よりお喜び申し上げます。

さて、これから高校生活を始めるみなさんに、頑張っている卒業生がいるという紹介も兼ねてお話しさせていただきます。

昨年の夏話題となったロンドンオリンピック。意外な種目の健闘があるかと思えば、柔道のように国民の期待に反して思わしくなかった競技もありました。日本柔道の不調は外国の好調でもありません。イギリスでは何と12年ぶりのメダル獲得に国が沸きました。銀メダルに輝いたのは女子58kg級ジェマギボンズ選手です。実は、彼女を指導したコーチは本校の卒業生である中野裕子さんでした。

中野裕子さんは1982年生まれ。在学中は柔道の団体戦、個人戦ともに全国大会に進み、個人では第3位という好成績を残しました。高校卒業後は広島大学に進み、さらに広島大

学大学院を経て、「生きた英語を学びたい」「外国人に柔道を教えた」という強い思いから、柔道部のあるイギリスのバース大学に留学しました。

留学後すぐに現地のアシスタントコーチとなりました。のちにその指導ぶりが関係者の目に留まり、イギリスナショナルチームのコーチに迎えられ、今回の快挙につながるのですが、それまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。

彼女はすぐに大きな壁に突き当たります。それは「言葉の壁」ではありません。「国民性の違い」と言ってもいい、日本では当たり前に通用的ことがまったく通用しないことに彼女は苦しみました。日本人なら何の疑問も持たずに取り組む稽古や毎日の基本的なトレーニングも、イギリス人に取り組ませるのは一苦労です。先輩や師匠、先生の指示を受け入れて黙々と取り組む習慣は彼らにはありません。「どうしてその練習をするのか」「どんな意味があるのか」など、いちいち説明を求め、納得しなければやろうとしないのです。彼らには日本流の「毎日の稽古」が退屈で、時間の浪費に見えたのでした。

毎日の稽古の大切さを伝えられない自分の無力を感じ、彼女は1年だけでコーチを辞めることも考えたそうです。けれども、新しく就任したフランス人指導者の指導を見て、彼女は「は」としました。外国の人が日本の柔道を深く理解し、きちんと選手に伝えている。その時の驚きをこう語ります。

「楽しいだけでなく、基本がどれだけ大切かを理論的に教える指導を見て、こんなに美しい柔道をする人がヨーロッパにもいるのだ。しかもそれを一生懸命伝えようとしている。さらにそれを選手たちが真剣に聞いている。選手たちも基本は基本から学ぶことを望んでいるのだ」と。つまり、彼女のできなかった基本の大切さを選手に伝え、基本から練習させていたのです。続けて言います。

「このときから、柔道の基本を正しく伝えることに力を入れるようになりました。基本があるから、型破りはできる。けれども、基本を知らないとしたら『だめ』です。だから、その基本を磨いていくことが柔道なのです。型破りはいいけど、でたはダメだということですね。」

同じようなことを昨年亡くなられた歌舞伎役者の中村勘三郎さんもよく口にしておられました。「型がある人間が型を破ると『型破り』だ。」「型がない人間が型を破った『型無し』だ。」(実は勘三郎さん率いる平成中村座の歌舞伎公演が、本校体育館を改装して行われたことがあったのです。2006年9月のことです。勘三郎さんとはそんな縁があっただけに、あの若さで亡くなられたことが残念でなりません。)

「型」を大事にした歌舞伎役者の勘三郎さんだからこそ、この言葉を何度も口にされたのでしょう。「基本」と「型」は通じ合っています。「基本」ができていて「型」が身につければ「型破り」もできる。けれども逆はできません。まずは基本の技を磨き、「型」を身につけることが大切です。勉強でいえばそれは「地道な努力」です。当り前のことではあります。とかく人の目を引く「型破り」ばかりがもてはやされます。その前に大事なことがあることを忘れてはなりません。

これから高校生活を始めるみなさんには、「型破りも大いに結構。どんな自分の力を伸ばして下さい」と申し上げましょう。と同時に、まずは「型」や「基本」を大事にする高校生活を送ってほしいと思っております。

最後に、本校の紹介をもつて締めくくらせていただきます。本校は親鸞聖人の教えに基づき、真宗大谷派関係学校の一つです。「同朋」とはわかりやすく言えば、同じ志を持つ「仲間」という意味です。今ここに集う人々はみな「同朋」です。生徒保護者、教師とそれぞれ立場や役割こそ違え、願いは一つ。一人一人の健全な成長です。私たちも「同朋」の一員としてみなさまと接しますし、保護者のみなさまも「同朋」の一員として、学校運営のよきパートナーとして私たちに接していただく、ともに成長しましょう。以上をもちまして、私の式辞とさせていただきます。(学校長式辞より)

春の息吹が感じられる今日のこのよき日、私たち新入生409名は同朋高校に入学することができました。

真新しい制服に身を包み、大きな期待と希望に満ちていると同時に、不安な気持ちでいっぱいです。

9年間の義務教育を終え、これからの生活は今までよりも大きな責任が伴います。しかし、自分自身が選んだ道です。これからの3年間、同朋高校で過ごす中で、勉強はもちろん、部活動においても積極的に取り組み、責任ある高校生活を送りたいと思います。

また、同朋高校に貢献できるよう努め、新たな経験を通し、多くのことを学んでいきたいです。

最後に、私たち新入生一同は、歴史と伝統ある同朋高校の生徒としての誇りを持ち、その名に恥じぬような生活を送ることをここに誓います。

新入生 誓いの言葉

新入生代表
103 大塚 菜々瀬
(清須市立清洲中学校出身)



’13年度 体育大会



今年の体育大会は、例年と異なる点がいくつかありました。もともと苦慮した点は、応援合戦の練習場所です。人工芝グラウンドが整備され、広く快適な練習場所ができたのですが、遮蔽物がなく、騒音で近所の方々に迷惑をかけてしまう恐れがありました。生徒には狭い場所で練習させ、フォーメーションの確認のみ人工芝グラウンドを利用していた練習となりました。十分な練習機会の確保とはなりませんでしたが、大会当日には良い応援合戦ができたと思います。これも3年生の努力と、1・2年生の協力があったからです。来年度以降も、クラスや団体のみの視点ではなく、近所の方々に迷惑をかけない、思いやりのある体育大会ができるよう努力・工夫し、誇ることができる体育大会をめざしましょう。

私は初めて体育大会全体統括を任せられ、体育大会までの準備や当日の流れがつかめず、運営する側の難しさを実感しました。助けていただいたみなさま、本当にありがとうございました。

(体育大会全体統括 藤山 茂)



優勝したい…3分間に賭けた思い

306 山内 斐那乃
(丸の内中学校出身)

「3年生は優勝する気あるの？」
自分たちの今までの頑張りは自己満足で終わっていたと、この一言で気付かされた。今年の応援合戦は、自分たちにとって最後ということもあり、みんなの応援合戦に対する意欲が今までとは明らかに違っていた。しかし、他のクラスは、ダンス部を中心として着々と準備を進めていたが、ダンス部のない私たち緑群団は不安しかなかった。このままでは優勝は程遠い存在になつてしまふと思ひ、たくさん仲間とともに毎日限られた時間の中でストーリーやダンスを考えてきた。体育大会も間近に迫り、自分たちがやることをして全体のHRに臨んだが、先生からは「優勝する気あるの？」と言葉を受けた。その時はなんでそんなことを言われないといけないのか、まったく分からなかった。

HRの後3年生で話し合っていく中で、自分たちのことしか考えておらず、外からどう見えるのかについてまったく考えていなかったことに気付いた。1・2年生も多く集まっていたのに申し訳ないと思った。そもそもテーマを「野菜」に決定した際に、3学年一体感がある作品をつくりたいと思つて動き出したことを思い出し、残りわずかな時間、それぞれが何をできるのか考えあつた。

その後の練習では、各自の意識が変わり、どんなみんなのモチベーションが上がっていくのが伝わってきた。本当に嬉しかった。最後に3年生の思いを一人ずつ1・2年生に伝え、みんなで円陣を組んだ時にはつになれたことが目に見え、その時にはすでに優勝する自信があつた。もはや優勝するしかないと思つた。それはみんな同じ気持ちだつたと思う。

本番は、本当にあつという間に終わつてしまつた。この3分間の応援合戦で楽しかったこと、辛かったこと、いろいろな気持ちがたくさんあつたからこそ、緑群団として、最高なものがつくれたと思う。だからこそ、優勝が発表された時、本当に本当に嬉しかった。自分にとって、最後の体育大会は人生の宝物となつた。



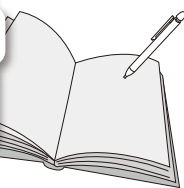
大会結果		
競技部門 (群団別)	優 勝	青群団 (302/201/109)
		黄緑群団 (304/205/107)
	3 位	黒群団 (303/209/107)
競技部門 (クラス別)	優 勝	302
	準優勝	304
		207
応援部門	優 勝	緑群団 (306/211/103)
	準優勝	黒群団 (303/209/107)
	3 位	桃群団 (307/210/106)

PHOTO : 写真部提供

一年生

フレッシュマン合宿

4月16日(火)～4月18日(木)



1年生は2つの団に分かれ、2泊3日の「フレッシュマン合宿」を行いました。1団(101・102・104・106・111)は岐阜県郡上市、2団(103・105・107・108・109・110)は愛知県西尾市での実施となりました。今年は少し肌寒く、心配された空模様は3日とも恵まりました。

合宿前に「基礎学力検定(通称…基礎検)第1回」を学校で実施し、合宿中は合計7回の基礎検を実施しました。その結果、70%以上の生徒が英・数2教科ストリート合格し、287名が合宿中に基礎検を修了することができました。

なお、合宿中に基礎検を修了した生徒は、「アシスタントティーチャー」として基礎検受験中の仲間へ指導し、基礎検の試験時間には更にレベルの高い「マスター課題」に取り組みました。勉強中心の学習合宿にも関わらず、生徒たちは素直に受け止め、規則正しい生活を送りながら真剣に取り組む姿がとても輝いて見えました。

基礎検のほか、各団は普通科・商業科・音楽科の卒業生をゲストに迎え、進路について考える「キャリア教育講演会」を行いました。勉強の合間に行った3回のクラスホームルームを利用し、高校生活について考えるとともに、クラス内の交流をすることができました。

3日間の宿泊合宿を終え、どのような成長につながっていくのか、1年担任団で温かく見守り、今後の教育活動に繋げていきたいと考えています。

(1年学年主任 佐野 将史)



本気でやれば、本気になれる！

フレッシュマン合宿に参加する前は、勉強が本当に嫌で、基礎検に絶対合格できなと思っていた。

合宿中のキャリア講演では、卒業生の小林さんが言われた「本気でやれば、本気になれる」という言葉を聞いたとき、「本気で頑張っていたいなかったのか」と思い、部屋に戻ってから真剣に勉強をしようと思いました。その後は、「絶対にできる。絶対合格する。」という気持ちを持って勉強に取り組みました。分らない事もたくさんありましたが、自分から質問することができたし、分からなくてもあきらめずに頑張ることができました。

だんだん理解できるようになると、勉強をする気も出てくるし、周りの仲間

102 太田 詩江里
(あま市立菟目寺南中学校出身)

たちに支えられて2級まで合格できました。感謝の気持ちでいっぱいです。みんなと仲良くできた3日間でもあったので、フレッシュマン合宿は楽しく真剣に勉強もできて、いい合宿だったと思いました。

ホームルームのレクリエーションでは、クラスメイトの名前でビンゴゲームをしました。ゲームをすることでクラスメイトの名前も覚えることができました。合宿前まで話したことなかった人も、合宿の中で話をすることができました。

これから、体育大会で優勝するためには、団結力も必要になってくるのでクラス全員と仲良くできたらいいと思います。

3年生

上山研修

4月18日(木)

8時に学校を出発し、京都・真宗本廟(東本願寺)へ「上山研修」に出かけました。3年生として最後の校外研修ということもあり、同朋生として誇りを持って行動をしようと、生徒も身だしなみを意識するところから研修することができたと思います。

東本願寺大寝殿で行われた研修では、まず学年を代表して安井はるかさん(瑞穂ヶ丘中学校出身)が本山から記念品をいただきました。真宗大谷派宗務所教育部長の本越渉様にこれからの生き方に対してとても参考になる教育講演をいただきました。講演中は3年生らしく、講演を聞く態度がとれ、讃歌「真宗宗歌」「恩徳讃」を歌うことができました。これも、学校行事をはじめ、さまざまな経験から一人ひとりが確実に成長してきた証であると確信しています。

東本願寺での研修を終え、クラスごとに清水寺や八坂神社などの散策を行いました。京都の歴史や古い町並みに触れることができ、とても有意義な一日となりました。

(3年学年主任 高橋 誠一)



2年生

遠足

4月18日(木)

2年生の遠足は快晴に恵まれ、普通科と商業科は三重県菟野町にデイキャンプへ、音楽科は静岡県浜松市にある楽器博物館へ出かけました。

普通科・商業科は、班ごとに食材を持ち寄り昼食を作る「ピストロ同朋」を実施しました。審査を担当した教員が驚くほど完成度の高い料理が並び、生徒達のチームワークの良さをまさに「舌」で感じるすることができた一日でした。

また音楽科の生徒達は、シヨパンの丘で生徒の手作りケーキを食べ、博物館ではいろいろな楽器に触れることができた一日となりました。

生徒達にとって、この遠足が高校生活の大切な思い出の一つとなったのではないのでしょうか。

(2年学年主任 大野 晋也)



第57回ウエサカ祭が開催されました

5月17日(金)

「ウエサカ」とは「国際仏陀の日」として、お釈迦様の誕生・成道(悟りを開いた日)・涅槃(亡くなった日)の三つの聖日を一つにまとめたお祭りです。毎年、日本や東南アジア各地において、ウエサカ(旧暦4月15日)の満月の夜にこの集いが催されています。県内でもこの時期に仏教を建学の精神とする学園が集い、この日を祝っています。

今年5月17日(金)に、お釈迦様の骨が納められている覚王山日泰寺を会場にウエサカ祭が開催され、第1部仏舍利奉讃式、第2部ウエサカ讃仰式に、代表生徒(1年各クラス正副委員長)38名と音楽科生徒25名、校長と代表教員が参加しました。今年も本校がウエサカ祭の当番校でしたので、音楽科の生徒が式典での聖歌隊を務め、素晴らしい歌声を披露しました。

式典後生徒たちは学校へ戻り、会場を名古屋ガーデンパレスに移し、第3部講演会、第4部聖餐会が開催されました。第3部からはPTA竹田会長、黒井副会長、高木副会長、河合会計、内海事業委員長と代表教員の参加となりました。第3部講演会では江本菜穂子名古屋造形大・大学院教授に「『幸せ』と『悲しみ』の表現—ルノアールとゴッホを中心として—」という演題でお話をいただきました。江本先生には画家たちの作品を通して、その背景にあるエピソードを紹介していただきました。内容が非常に興味深いものであり、参加者には好評でした。第4部聖餐会では会食を交え、来賓の方々や他学

園の保護者の方々との懇親の場となりました。また、本校美術部・書道部がウエサカ祭協賛作品展に出品し、以下の生徒が受賞しましたのでご紹介いたします。

書道の部
金賞 南谷 明里 (307)
銀賞 眞鍋 晃季 (305)
銅賞 安藤 栄梨 (202)
佳作 溝口 奈緒 (202)
山口恵実花 (201)
松岡 凌輝 (204)

金賞 土井美沙季 (308)
銀賞 幅 智哉 (302)
銅賞 加藤 誠史 (207)
佳作 伊藤 駿 (206)
坂東 佳奈 (208)
山田絵梨子 (208)
佐藤 一恵 (211)
坂口 亜依 (211)

なお、作品につきましては10月16日(火)～10月30日(火)に校内にて展示する予定です。

(ウエサカ祭事務局担当教員 瀧 正範)

